

—「モモ」から読み解く経済講座(第3回)—

過酷な働き方は何のため、誰のためか

自分の秘書に「奴隷監督！」と叫ぶジジを考える

講師：嶋 崇 さん（経済学研究家）

略歴 法政大学経済学部卒、元主婦の友社雑誌編集長、アジア太平洋資料センター(PARC)にて『資本論』講座、『モモ』から読み解く経済講座、宇沢弘文の経済学講座などを担当

著書 『いまこそ「資本論」』(朝日新聞出版)、『PEN』(阪急コミュニケーションズ)アカデミズム特集で経済学を執筆

身近なのにとっつきにくい「経済」——しかも現在は、お金・経済の捉え方が危険なほど歪んでいます。ミヒャエル・エンデが「お金」をテーマに書いた『モモ』。「お金」が支配する私たちの社会を、『「モモ」を読む高校生と経済学者カール・マルクスが会話したらどうなる?』のサブストーリーを参考に読み解きます。(できるだけ、『モモ』(岩波書店)を事前に読んでおいてください。)

ジジも灰色の男にそそのかされた一人です。そのおかげでテレビやラジオで引っ張りだこの有名人になれたのですが、ジジは秘書を「この奴隷監督！」となじります。過酷な働き方を強いられる現代の私たちも、誰かの奴隷になっているのかもしれません。

今後の予定（裏面参照）

- (第1回) お金・貯蓄・投資がはらむ危険性—時間をためるとは? 時間貯蓄銀行とお金の関係を探る(終了)
- (第2回) 不機嫌で不寛容な現代の資本主義—時間をためることで忙しく不機嫌になる居酒屋の二ノ(終了)
- (第3回) 過酷な働き方は何のため、誰のためか—自分の秘書に「奴隷監督！」と叫ぶジジを考える(今回)
- (第4回) 使い捨てにされる働く若者—「人間はいらないものになっている」と言う灰色の男の本心(2/11)
- (第5回) 「お金」と「ゆたかさ」を根本から問い直す—モモが取り戻した時間とゆたかさとは?(3/11)

日時： 1 月 14 日(水)19:30~21:30 場所：オンライン で行います。

参加費：一人 1,000 円(入金後のキャンセルは、ご容赦ください。)

申込み方法： オンライン及び事後配信 次の URL 又は QR コードからお申込みください。

(当日は時間が取れない方も、事後録画配信で参加できます。)

<https://begleiten260114.peatix.com/>

Zoom の URL:お申込み確認後、1 月 14 日(水)19:00~19:15

に Zoom の URL、ID、パスワードを、個別にご連絡します。



問合せ・連絡先： 関根和彦 090-9146-6667 k_sekine@f7.dion.ne.jp

主催：ベグライテン HP: <http://begleiten.org/> FB: <https://www.facebook.com/begleiten2/>

X: <https://twitter.com/Begleiten2001>

『モモ』から読み解く経済連続講座（予定）

毎月第2水曜日 19:30～21:30

できるだけ講座開始前に、『モモ』(岩波書店)*を読んでおいてください。
各回の資料は、講座冒頭に配布します。

(第1回)お金・貯蓄・投資がはらむ危険性—時間をためるとは？時間貯蓄銀行とお金の関係を探る(終了)

最初に経済学の歴史に簡単に触れ、その後、『モモ』のストーリーに沿って考えていきます。

モモたちの住む街にやってきた灰色の男は、人々に時間貯蓄銀行に時間を貯蓄するよう勧めます。そして、「貯められる時間」は「お金」と関係がありそうなのです。

(第2回)不機嫌で不寛容な現代の資本主義—時間をためることで忙しく不機嫌になる居酒屋のニノ(終了)

灰色の男の誘いに乗り、ゆたかになるために時間を貯蓄した人たちは、なぜか不機嫌になっていきます。お店を大きくして成功に向かっていくはずのニノを例に、モノがあふれても不機嫌で不寛容になる現代の資本主義の謎を解き明かしましょう。

(第3回)過酷な働き方は何のため、誰のためか—自分の秘書に「奴隷監督！」と叫ぶジジを考える(今回)

ジジも灰色の男にそそのかされた一人です。そのおかげでテレビやラジオで引っ張りだこの有名人になれたのですが、ジジは秘書を「この奴隷監督！」となじります。過酷な働き方を強いられる現代の私たちも、誰かの奴隷になっているのかもしれない。

(第4回)使い捨てにされる働く若者—「人間はいらないものになっている」と言う灰色の男の本心(2月11日)

灰色の男はモモに対し「人間なんてもうとっくにいない生きものになっている」と告げました。灰色の男が時間を奪おうとしている人間がいらない生きものになっている？働く若者が現代では使い捨てにされる理由が見えてくるかもしれません。

(第5回)「お金」と「ゆたかさ」を根本から問い直す—モモが取り戻した時間とゆたかさとは？(3月11日)

モモの活躍で灰色の男は消え、時間とゆたかな生活が戻りました。灰色の男は消える前に「これでいいんだ」と言いました。灰色の男＝現代の矛盾を作り出したのは私たちかもしれません。それはなぜか？「お金」と「ゆたかさ」の関係から考えてみましょう。

『モモ』(岩波書店) ミヒヤエル・エンデ 作 大島 かおり 訳 岩波少年文庫